

大隅地域 地域振興の取組方針〈改訂版〉

1 「大隅地域 地域振興の取組方針〈改訂版〉」の主な内容

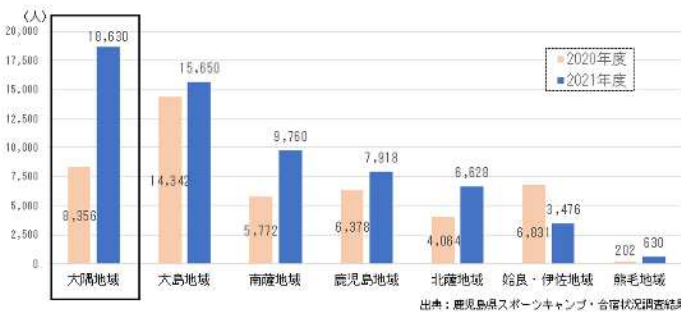
(1) 時代の潮流と大隅地域の現状・課題（第2章）

ア 大隅地域は、自然環境に恵まれ、和牛日本一に輝いた肉用牛や、カンパチ、ブリ、ウナギ等の養殖業をはじめとする豊富な食材など、優れた素材はたくさんあるのに、PR不足で世間の認知度が低い。

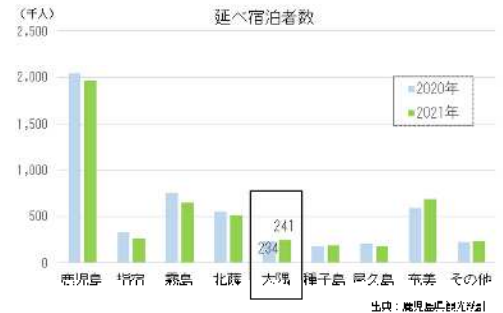


日本一の和牛

イ 観光分野では、スポーツキャンプ・合宿の受入は県内でも高いシェアである一方、宿泊インフラや二次交通に乏しく、入り込み客、宿泊客数が他地域と比較して少ない。



スポーツキャンプ・合宿延べ人数（地域別内訳）



地区別延べ宿泊者数

ウ 雇用について、多くの産業で従業者数が減少しており、担い手確保が課題。地元企業の魅力や大隅地域で働くことの魅力について、若者等に十分に伝えていく必要がある。また、農林水産業に従事することが「カッコイイ」ということを若者にアピールする必要がある。

エ 人材不足を補う形で、製造業を中心に外国人労働者が増えている。

	2017	2021
大隅地域	0.74%	1.11%
県全体	0.56%	0.75%

総人口に占める外国人の割合



鹿児島労働局管内の外国人雇用状況

オ デジタル化の進展により、業種によってはどこでも仕事ができる環境が整いつつあり、若者等の大隅地域定着とU Iターンを促進することが必要である。

- カ 近年では農業と福祉が結びついた農福連携の動きが見られつつあり、農業分野に限らず、林業、水産業など他の分野でも取組を促進する必要がある。
- キ 国内唯一の国立体育大学である鹿屋体育大学を有する地域の強みを生かす必要がある。
- ク 持続可能な森林の利用を図るためには、再生林に必要な労働力の確保、機械を活用した労働力の軽減、森林所有者に対する再生林への認識・必要性の周知が課題である。



再生林

- ケ 九州で唯一の「国際バルク戦略港湾（穀物）」である志布志港の整備を引き続き進め、輸出促進にも取り組む必要がある。
- コ 畑かん整備が進んだが、農業者が高齢化しており、新たな作物の導入など利活用が課題である。
- サ ウッドショックにより国産材の需要が高まる中、管内の木材資源の活用について、林業事業体、製材会社、行政が一体となり、木材需要拡大や木材産業の競争力強化につなげる必要がある。
- シ 観光客の一番の関心は「食」である。食の宝庫である大隅地域をもっとアピールする必要がある。
- ス 「稼ぐ力」を向上させ、県民所得の向上を図ることが必要である。

(2) 取組の基本方向（第4章）

大隅の魅力の発信～大隅の認知度向上

- ア 国内外への情報発信によるイメージアップ、SNS等を活用した効果的かつ持続的なPRを行うなど、大隅の魅力の発信に努める。また、来訪者が感じた大隅の魅力を、即座に発信できるような環境整備に取り組む。
- イ 大隅の次代を担う青少年の育成、郷土教育の充実など、「おおすみ愛」の醸成に取り組む。



佐多岬

未来を拓く人づくり～地域や産業を担う人材の確保・育成

- ア 大隅地域の住民と外国人が共生する多文化共生の地域づくりに取り組む。
- イ テレワークの普及啓発など、柔軟な働き方の環境整備を促進するとともに、都市圏等の人材の副業・兼業人材としての活用やワーケーション

- による地域との交流により、地域産業を支える人材の確保・育成を図る。
- ウ 大隅地域で働き暮らすことの魅力発信による若年層の地元定着を図る。
 - エ 地域の農林水産業を支える人材を確保するため、農業労働力支援センターによる相談活動や、農業、林業、水産業と福祉との連携の推進、異業種との連携、外国人材の円滑な受入に向けた環境整備、体験ツアー等による魅力発信など、多様な人材の確保に向けた取組を推進する。
 - オ 国内唯一の国立体育大学である鹿屋体育大学を有する強み、ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅等の充実した施設、恵まれた気候・観光資源・自然環境等を生かしたスポーツキャンプ・合宿等の誘致活動を推進するとともに、大隅地域で活動するプロスポーツチームの支援など、スポーツを通じた交流人口の拡大や地域活性化を図る。



鹿屋体育大学スポーツパフォーマンス研究センター ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅

暮らしやすい社会づくり～安心・安全な社会の実現

- ア 「運動・スポーツによる地域健康増進KANOPYAモデルの試み」などに取り組む鹿屋体育大学と連携し、住民の健康増進の取組を推進する。
- イ 地球温暖化防止等において、森林吸収源対策の果たす役割は大きいことから、森林の適正な整備や木材利用の拡大等、二酸化炭素の排出削減に向けた取組を図る。

活力ある産業づくり～「稼ぐ力」の向上

〔農林水産業の「稼ぐ力」の向上〕

- ア 志布志港からの県産農林水産物等の更なる輸出拡大に向け、小口混載物流などの取組を推進する。
- イ 大規模畑地かんがい施設などの生産基盤の整備や土地改良施設の長寿命化を推進するとともに、畑かん営農ビジョンに基づき、生産性や収益力の高い農業の実現に向けた営農体系づくりを推進する。



志布志港



志布志港からの農産物小口混載輸出のイメージ

ウ 国及び業界において、「持続可能性に配慮した木材調達方針」を強化しており、この方針に合致した国際的な森林認証の取得に向けた取組を図る。

エ 「かごしまのさかな」などをはじめとする県産水産物について、流通、消費環境の変化に的確に対応しながら、産地の生産体制の強化を通じた生産性の向上により、販売量増大を図るとともに、「未利用魚・低利用魚の活用」など、品目特性に応じて、付加価値を高める販売対策を講じる。



未利用魚・低利用魚

オ 食と農林水産業に関する体験機会の提供や農林水産業者と消費者の交流等による県産農林水産物への理解促進等の食育の推進を図るとともに、地域固有の食の魅力の掘り起こしを行い、稼ぐ力の向上を図る。

〔観光の「稼ぐ力」の向上〕

カ 地域の観光資源の発掘や磨き上げに努め、自然や環境、自転車・バイク、健康・癒しなどをテーマとする各種ツーリズムや農家民泊など、地域の特性を生かしたツーリズムを推進する。

キ 和牛日本一に輝いた牛肉などの大隅の豊かな食材について、観光客が堪能できるような取組を推進する。

ク 大隅の豊かな自然環境を体験できるキャンプ場等の整備を推進する。

ケ 薩摩半島と大隅半島を結ぶ錦江湾内のネットワーク形成を推進し、特にマリンポートかごしまへ国際クルーズ船で訪れた外国人観光客の大隅地域への誘客を図る。

コ 県内各地や隣県との周遊を促進するため、他地域との連携を図る。

サ DMO（(株)おおすすめ観光未来会議）との連携を図り、「おおすすめブランド」を確立し、地域の「稼ぐ力」を引き出す。



大隅駅弁ロゴ



大隅肉本



ドームハウス（東串良町）

地域の「稼ぐ力」を引き出す。

〔企業の「稼ぐ力」の向上〕

シ ロケット打上げ施設を有する強みを生かした宇宙産業など、地域特性や企業の独自技術などを生かした新産業への支援を図る。

2 改訂に向けたこれまでの取組等

取組	内容	年 月 日
市町に意見照会	・見直しについて意見照会	令和4年5月23日～ 6月10日
地域おこし協力隊員等 意見交換会	・地域の魅力や課題，課題解決策 等について意見交換	6月30日
地域懇談会（第1回）	・見直しに向けた意見交換	7月21日
〃（第2回）	・素案に係る意見交換	10月25日
〃（第3回）	・案に係る意見交換	12月20日
地域行政懇話会（全体 会）	・管内市町へ見直しについて説明 意見交換	5月20日
〃（現地意見交換会）		9月1日～ 11月8日

- (1) 見直しに当たり大隅地域の課題や必要な取組等について，若い方々から意見を聞くため，地域おこし協力隊員及び同隊員OB・OGと振興局若手職員との意見交換会を開催した。
- (2) 地域の有識者や各分野のリーダー等で構成する「地域懇談会」を開催し，様々な観点から意見を聞いた。
- (3) 各市町と個別に実施している行政懇話会の場を活用し，各市町が策定する総合振興計画等において，特に力を入れている取組や重視している対応すべき課題等について意見交換を行った。
- (4) 改訂後の取組方針について，概要版を作成し，地域住民への周知を図る予定である。